

語形成に注目させる語彙指導について

石崎 陽一

1. はじめに

本誌 65 号で「語源を用いた語彙指導の実践報告」を記した。「ことばに対する知的好奇心を喚起する」という内容に興味をもたれた編集部より、今回、新たに執筆依頼をいただき、関連記事を執筆する運びとなった。本稿では語形成に注目させる語彙指導について、導入の経緯や時期、指導の留意点に触れ、教材例を提示したい。

2. 指導を始めた経緯

高校時代、「市街地の開発、町づくり」のことを urban development と言うのだと知ったとき、覚えるのに苦勞していた suburb「郊外」のことを、ああそうか、あの単語は sub-+urb、つまり「下」「副」を示す sub- (cf. submarine, subway, subtitle) と「市街地、町、都会」の意味の urb (cf. urban, urbane) とが結びついたものだったのか、そうだったのかと大いに納得したものだった。それまでの私は、「郊外」にあたる英語は「s, u, b, u, r, b」という具合に、ただやみくもに暗記していたのだ。これを機に、綴りを記憶する際の労力が半減し、英語という言語の背景にある文化のようなものに興味を抱くことになったのを今でも鮮明に覚えている。

英単語はわずか 26 文字が様々な組み合わせで作られている。この文字は表音文字であり、表意文字である漢字と異なって意味がないため、ただ棒暗記で覚えたものは、すぐ忘れてたり意味を混同したりしがちだ。しかし、理屈や経験をもって覚えたものの場合、忘れていても一度引き出せば、また思い出しやすくなる。あれはそんなことを実感するでき事だった。

主としてこうした個人的経験から、私は、教科書や副読本、単語集などを通じて生徒の頭に単語が蓄積された時期を見計らい、語形成 (word formation) に注目させることで単語を整理整頓し、さらに語彙の増補を図る指導を行っている次第である。

3. 指導を始める時期

単語の整理整頓はいわばごちゃごちゃになった引き出しの中を整理するようなものだから、語形成に注目させる指導の開始時期としては、生徒の頭の中にある程度単語のストックができた時点が効果的だと私は考えている。そこで、具体的には高校 2 年の冬休み (前) から語根 (root) と接辞 (affix) を教え、意味をもった塊を記憶や類推の鍵として単語を覚える方法を身につけさせる。

例えば、depend「頼る、あてにする」、pendant「ペンダント」、pendulum「振り子」、perpendicular「垂直な」といった単語を覚えた時点で、pend という語根には「垂れ下がる、ぶら下がる」という意味があると教える。そこで「垂直な」状態はまっすぐに垂れ下がっている状態、ペンダントは胸に垂れ下がっている状態などがイメージできると言うとき生徒たちはすっきりした顔で納得する。「頼る、あてにする」も「だれかにぶら下がっている」状態だと思えばつけ加えると、これらの単語が頭にしっかり焼きつく。こうした話を聞いて得心した学習者は、pending という単語を知らなくても、その意味が「宙ぶらりんになっている」に関係していることが類推できることだろう。

4. 指導の留意点

このように、語形成の知識を使うと、すでに知っている英単語を、きちんと頭の中の引き出しに整理することができる。また、未知の単語にぶつかった場合でも、語を構成するパーツから、その単語の意味を類推することができる。もちろん、英単語には構造があって複数のパーツが複合してできているとは言っても、分析することで、すべての単語の定義が判明したり、語義が類推できたりするわけではない。要するに、この語彙学習法は万能ではない。よって、何から何まで語形成の知識で片づけようとする姿勢は危険である。しかし、語形成の知識からわ

かることも多いことは、私の体験からも言える。そこで、取り扱う単語を厳選した上で、suburb を sub-+urb と分解することで覚えるように、a+b=c のような考え方で、一見して現在の意味が生まれた背景に納得がいくように提示することを私は心がけている。具体的な教材例を紹介しよう。

5. 指導の教材

以下に示すのは高2の冬休み(前)に授業ないし講習を使って実施する、語形成に注目させる語彙指導の教材の一部である。

13

finish の fin

fin=終わり/限り/仕上げ

1. finish
 - ① 終わる, 仕上げる, 完成する
2. final
 - ① 最後の, 最終の, 決定的な
 - ② 決勝戦, 期末試験
3. finite [終わりのある]
 - 発音注意! [fáɪnait]
 - ① 限りある, 有限の, 限定された
 - ② infinite
4. infinite [終わりのない(in)] →32 in(=not)
 - 発音注意! [ɪnfəɪnət]
 - ① 無限の, 果てしない, 莫大な
 - ② finite
5. confine [完全に(con)限る] →41 con(=together)
 - ① 限る, 制限する, 限定する; 閉じ込める
 - ② 境界, 国境, 範囲, 分野, 領域
 - ③ confinement 監禁(状態), 幽閉; 限定, 制限
6. define [限界を完全に(de)決める] →48 de(=fully)
 - ① 定義する, 明確にする
 - ② definite 明確な, 確かな, 決定的な
 - ③ indefinite 不明確な, 漠然とした, 不定の
7. refine [繰り返し(re)仕上げる] →59 re(=again)
 - ① 洗練する, 磨きをかける, 不純物を除く, 精製する
 - ② refined 洗練された, 上品な
 - cf. oil refinery 石油精製所
8. fine [仕上げの済んだ]
 - ① (1) 洗練された, 立派な, 素敵な
 - (2) 良い, 結構な
 - (3) 細かい, 繊細な
 - (4) 純度の高い, 上質の

この教材は派生した単語数の多い、すなわち応用範囲の広いと思われる構成要素を見出しに掲げ、関連語をその下にリストアップしたものだ。[] 内に記憶や想起の鍵となるコメントを入れたり、「→」の記号を添えて関連項目の番号を示すことで相互参

照をしやすくし、連鎖的に学習者の興味が拡大するような工夫を施している。

この教材を用いて、教室では既知の語を基に未知の語の意味を類推したり、既知の語同士の結びつきを知ることで記憶の定着を図ったり、といった過程を体験させる。単語が頭の中で芽づる式に増補されるのを実感した生徒たちは事後、独習を進める。語彙力が雪だるま式にアップするのを予感するようだ。

6. おわりに

啐啄(そったく)ということばがある。鳥が孵化するとき、雛が卵の殻の内側からコツコツとつつく。それを啐(そつ)という。その力だけでは殻を破ることができないから、親が外側から雛のつついているところをつつく。こちらは啄(たく)と言う。この親子の呼吸がぴったり合わなければ、卵の殻は割れず雛は死んでしまう。親のつつきが早すぎれば、卵の中はまだ孵化の準備ができていない状態だから、これまた死んでしまうほかはない。千に一番というころあい、啐啄一致が大事というわけだ。

私は語彙指導はあらゆる機会をとらえて実践すべきであり、学習者が知りたい、もっと自分の力を伸ばしたいと思ったときこそ指導のチャンスと考えている。タイミングが大切ということで、啐啄の機を窺いながら、引き続き、ことばに対する知的好奇心を喚起する指導を折に触れて行っていきたい。そのためにも、指導者の知識はそんなに教える必要はないけれど、うんともっていなければならないと感じている。

主要参考文献

- Hans Marchand, *The Categories and Types of Present-Day English Word-Formation*. Beck.
- Valerie Adams, *An Introduction to Modern English Word-Formation*. Longman.
- Paul Nation, *Teaching and Learning Vocabulary*. Heinle & Heinle.
- Paul Nation, *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge University Press.
- 福島治 編『英語派生語源辞典』日本図書ライブ。